

外国語教育における小中連携のあり方

ーカリキュラム連携の視点で生徒の自己表現力を高めるための工夫ー

M17EP006

清水貴美子

1. 目的と問題

(1) はじめに

昨年度までの研究で、外国語教育における小中連携の実態として、カリキュラム連携に課題があることが分かった。その課題をクリアするために、一中学校英語教師としてできることは何かを考え、カリキュラム連携の具体的な方法と指導の工夫のあり方について、指導案の提案をした。

本年度は勤務校に戻り、その指導案を用いて、実践し検証する予定だったが、担当学年が3学年ということもあり、提案した授業を行うことができなかった。また、4月当初の授業の様子から、生徒が英語を話すこと、書くことに苦手意識をもっていると感じた。それを1つの課題とし、生徒の自己表現力を高める工夫もしていくこととした。併せて、昨年度までの研究を見直し、今年度の研究を軌道修正した。具体的には、現在担当学年でのカリキュラム連携の視点から本研究に最適な単元を洗い出すことから始まった。結果として、昨年度作成した「小学校で学んだ表現を中学校の文法事項へとつなげた一覧表」を活用し、表現とのつながりを見つけたが、新出文法事項という視点で該当するものがなかった。そのため、カリキュラム連携の視点を、場面と語彙へと広げ、「場面でのつながり一覧表」の見直しと、「語彙でのつながり一覧表」を作成した。

(2) 課題意識

筆者が小中連携の可能性に関心をもつようになったのは、小学校で外国語活動をしてきた生徒が入学するようになってからである。平成26年度小学校外国語活動実施状況調査の結果[概要]を見ると、外国語活動を経験し

た中学1年生について、小学校で外国語活動を経験したことにより、「英語の音声に慣れ親しんでいる」に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的に答えた中学校教員は93.5%であり、その効果がうかがえる。また、同じ調査で、「英語で活動を行うことに慣れている」に90.9%、「英語に対する抵抗感が少ない」に86.2%、「英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている」に92.6%が、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的に答えている。筆者自身も同じように思い、小学校での外国語活動の効果を感じていた。また、一昨年担当した一年生に対し、一昨年の年度末に英語学習に関するアンケート調査を行った。その中の「小学校で触れた英語が中学校でも役に立つ（立っている）と思いますか？」という問いに、82%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答した。そのことから、小学校で学んだことを財産と考え、その財産を中学校での学びに活かしながら、さらに生徒の英語力を伸ばしていくには、教師にどんなことができるのかということに課題意識をもつようになり、2年計画で外国語教育における小中連携のあり方について研究することとした。

2. 研究の方法

カリキュラム連携の問題を改善するために次のような研究計画を立て、2年計画で進めてきた。

○昨年度

- ・実習校での参与観察
- ・文献調査、研修会・研究会等への参加
- ・小学校での学びを活かせる中学校での実践プログラムの作成

○今年度

- ・勤務校での授業実践・改善
- ・月に1度小学校外国語科の授業参観・情報交換等
- ・場面及び語彙でのつながり一覧表の作成
- ・勤務校で実際に可能なプログラムの模索と実践及び検証

- (1) 対象校 山梨県内の公立中学校
- (2) 期間 平成30年5月～12月(週1回)
- (3) 対象生徒 第3学年生徒(98名)
- (4) リサーチ・クエスチョン

「小中のつながりを意識した指導の工夫は、生徒の自己表現力の高まりに有効か」

田中・田中(2003)によれば、自己表現力とは「自分の気持ちや考えを伝えたり、自分の意思を示したりする力」であり、その構成要素として文法能力、談話能力、方略能力、社会言語能力の4つを構成要素としている。学習指導要領で「文法はコミュニケーションの支えであり、内容を豊かにするもの」としていること、筆者自身も同じように考えていることから「文法能力」と、小学校で行われているコミュニケーションを通して英語を学ぶという流れを踏襲できるとの考えから、「方略能力」の2つの能力を特に伸ばしたいと考え、小学校とのつながりを意識した指導の工夫を行い、生徒の自己表現力が高まるかどうかを検証した。

(5) 実施方法

- ① これからの英語教育について、特に生徒の表現力を高める実践に関する情報収集のための研修会・学会参加と文献調査と授業改善の模索
- ② ①を踏まえた文法・語彙・場面の3つの視点で小学校とのつながりを指導者が意識し指導できる単元での授業実践
- ③ 事前アンケート調査による生徒の実態把握
- ④ 単元前後の語彙及び文法に関する調査と分析
- ⑤ 単元前後のパフォーマンステストの実施

- ⑥ 指導者によるALT、生徒へのインタビュー
- ⑦ 授業後の振り返りシート(以下「伸びるシート」)の分析

3. 実践と結果

- 2. (5)の②, ③, ④, ⑤についてまとめ、①, ⑥, ⑦も含めた成果と課題としてまとめる。

(1) 小学校とのつながりを意識した指導の工夫

- ① 小学校とつながりが3つすべての視点で捉えられる単元での授業実践

筆者が作成した文法事項・語彙・場面それぞれの小学校とのつながり一覧表を用いて、小中連携を意識し指導ができる単元をカリキュラム連携の3つの視点で洗い出した。

ア. 小学校とのつながり文法

⇒不定詞名詞的用法

What do you want to be in the future?

I want to be a ~.

イ. 小学校とのつながり場面⇒将来の夢

中学校: Columbus 21 English Course Book 3

Unit. 5 Dreams for the Future

小学校 Hi, friends! 2

Lesson 8 「夢宣言をしよう」

小学校 We Can②

Unit. 8 「将来の夢・職業」

ウ. 小学校とのつながり語彙

⇒職業を表す単語

ア～ウを考え合わせて、Unit. 5 Dreams

For the Future 「将来の夢」という単元で授業実践した。この単元の学習を通して生徒が、小学校とのつながりのある文法・語彙について復習をしながら学ぶことで、語彙や表現の定着を目指した。最終的に、生徒一人ひとりがそれぞれの将来の夢について英語で表現できるようになったかどうかを検証した。

語彙・文法の定着のために行った指導の工夫は、語彙については、職業をあらわす語にしぼり、絵付の単語カードを作成し、読み方や意味を指導した。また、そのカードを使っ

て、それぞれのカードにある職業についてペアで、英語で話す活動も行った。表現（文法事項：不定詞の名詞的用法）については、**want to be**～はもちろん、**want to** 一般動詞～や **like to** 一般動詞～についても、**Small Talk** で扱い、第二言語習得理論を意識し、インプット、インタラクション、アウトプットができるようにした。また、1時間目に「この単元の目標の1つとしては、生徒一人ひとりがそれぞれの進路について考え、自らの進路について考えを深めることである」ということを伝え、「伸びるシート」で生徒に振り返りを書くように指導した。この単元の単元計画と1時間目の授業案は表3、4のとおりである。単元計画は第二言語習得理論を意識して作成した。1時間目の授業案については、授業前半は音声によるインプットを、後半は文字によるインプットを多くすることを意識した。

②毎時間の授業で小中のつながりを意識した指導

- ・教材・教具のつながり
 - ・小学校での学びの復習
 - ・インタビュー活動、クイズ、スピーチ場面を意識した言語活動の踏襲
 - ・ペア活動、教師と生徒、生徒同士のインタラクション、**Small Talk** や **Retelling** 活動
- これらを小中のつながりのあるところと考え、毎時間の授業で意識的に取り入れるようにした。特に **Small Talk** については授業始めの **Warm-up** の活動として考え、帯活動として継続して行った。

表1 小中のつながりを意識した指導の授業デザイン例（筆者作成）

Warm-up	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk（不定詞名詞的用法が復習できるような話題で実施） ・ スピーチ「将来の夢」5人ずつ・職業を表す語が書かれたカードを使ったペアワーク
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出単語を扱ったペアワーク ・ 場面を意識したALTとの新出文法の導入と説明（関係代名詞を用いたALTによるクイズ）
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピクチャーオーダリング ・ 音読（音読練習からチャレンジ音読へ） ・ オーラルイントロダクションから教科書内容読解 ・ 新出文法事項を扱った言語活動（関係代名詞を用いたクイズづくり・クイズ大会） ・ Retelling活動
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ OPPシートを使った授業の振り返り ・ 教科書の内容に関して自分の意見を書く ・ Retelling活動で使った英語を思い出して英文で書く

（2）自己表現力を高めるための工夫

生徒には英語を話したり書いたりすることに挑戦してほしいと常々話してきた。4月、5月に比べると、積極的に英語を話したり書いたりする生徒が増えた。並行して自分自身の授業改善のためにいくつかの工夫をした。

Warm-up では1、2年の文の復習活動をしたり、なんでもない世間話をペアでする活動も行ったりしてきた。また、1、2年の時に学んだ単語や文法を使って、英語を書く活動もできるだけ授業の中で設定し、生徒が英語を使おうとする環境をつくる工夫をしてきた。しかし、限られた時間の中で、生徒が英語を活用する場面をつくるのがなかなかできなかった。そのため、英語を話したり書いたりする時間をなるべく多く作り出す必要性を感じ悩むことが多かった。これまでは、まず単元で学ぶ文法指導を数時間かけて行い、単元の内容理解をオーラル・イントロダクションやオーラル・インタラクションで始め、ワークシートを使いながら理解をさせ、音読を含めてできるように指導計画を立て指導していた。そして、最終的に単元のゴールが達成できているかどうかを主にライティング活動で確認するという流れで授業をしてきた。この方法を変えることが、その悩みの解決になるのではないかと考えた。金谷憲著『英語運用能力が伸びる5ラウンドシステムの英語授業』をバイブルとして、夏休み明けから、一つの単元を5ラウンドシステムの考えを取り入れて計画し、実践してきた（表3単元計画参照）。基本的な流れは以下のとおりである

（下線部は筆者の考えでつけ加えたもの）。

表2 5ラウンドシステムを取り入れた単元計画（金谷憲（2017）『英語運用能力が伸びるラウンドシステムの英語授業』。大修館書店を参考に筆者が作成）

	主な指導内容
Round 1	扉のページを用いて単元の

	大意を理解. Picture ordering <u>必要な語句の理解</u>
Round 2	音と文字の一致, <u>内容理解のための T or F, Q&A</u>
Round 3	様々な方法を用いて音読
Round 4	穴あき音読 <u>Summary Writing</u>
Round 5	<u>Retelling, Writing</u>

表3 Unit. 5 Dreams for the Future 単元計画

1	Round 1-① ・外国語活動で触れた職業に関する語彙を復習する。 ・身近な人の中学生の頃の夢を読み, 自分自身の将来の夢について考えるきっかけとする。 ・登場人物の将来の夢について興味・関心を高める。		
2	Round 1-② ・職業語彙を扱ったカードを用いてペアで会話する① ・新出語句の導入し確認する。 ・本文を通して聞き, Unit. 5 の大意を理解する。 ・前時の復習をし, 教科書本文を何度も聞いて理解する。	7	Round 5 ・ピクチャーを使いながら, ペアやグループで教科書の内容を Retelling する。 ・Retelling した英文を書く。
3	Round 2-① ・職業語彙を扱ったカードを用いてペアで会話する② ・教科書の本文を繰り返し聞きながら, 音と文を一致させ内容を理解する。 ・本文中の新出語句を理解する。	8	Language I 関係代名詞主格 (that) ・関係代名詞主格 (that) を用いた文の意味, 形, 使い方を理解する。(ALT による職業語彙を扱ったクイズを聞いて答える) ・教科書本文とワークシートを用いて関係代名詞主格 (that) を用いた文に慣れ, 使用する。
4	Round 2-② ・職業語彙を扱ったカードを用いてペアで会話する③ ・教科書の本文の内容を理解する。 ・本文中の新出語句を正しく発音する。	9	Language II 関係代名詞主格 (who/which) ・前時の関係代名詞主格 (that) の用いた英文を聞いて復習する。 ・関係代名詞主格 (who/which) を用いた文の意味, 形, 使い方を理解する。(ALT による職業語彙を扱ったクイズを聞いて答える) ・教科書本文とワークシートを用いて関係代名詞主格 (who/which) を用いた文に慣れ, 使用する。
5	Round 3 ・様々な音読練習を用いて, スモールステップを踏みながら, 話すことにつながる音読練習をする。 ・教科書の登場人物の将来の夢に対する自分の意見や感想を英語で述べ, 述べたことを英語で書く。	10	Language III 関係代名詞目的格 (that) ・前時の関係代名詞主格 (who/which) を用いた英文を聞いて復習する。(生徒が作った関係代名詞を含んだクイズ大会) ・関係代名詞目的格 (that) を用いた文の意味, 形, 使い方を理解する。 ・教科書本文とワークシートを用いて関係代名詞目的格 (that) を用いた文に慣れ, 使用する。
6	Round 4 ・チャレンジ音読シートを用いて, スモールステップを踏みながら, 話すことにつながる音読練習をする。 ・教科書の登場人物の将来の夢に対する自分の意見や感想	11	Language IV 関係代名詞目的格 (which) ・前時の関係代名詞目的格 (that) を用いた英文を聞いて復習する。(関係代名詞を含むクイズづくり) ・関係代名詞目的格 (which) を用いた文の意味, 形, 使い方を理解する。 ・教科書本文とワークシートを用いて関係代名詞目的格 (which) を用いた文に慣れ, 使用する。
		12	まとめ ・関係代名詞の復習 ・リスニングテスト
		13	・単元テスト ・パフォーマンステスト「将来の夢について」

表 4 Unit. 5 Dreams for the Future 1 時間目授業案

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価標準	評価方法
2分 7分 1分	あいさつ Small Talk Today's Goalの提示	・日直は全体に、曜日、日付、天気聞き、他の生徒が答える。 ・ペアワーク 30秒ずつ1分間で話す。時間いっぱい話し続ける努力をする。	・生徒の答えを板書しながら、必要であればインタラクションをする。 ・タイマーで時間を測る ・机間指導し、生徒の観察をし、必要であれば支援する。また、全体でシェアすることがあればペアワーク後に行う。 ・Dream for the Future と板書する。 ・確認後、流れ良く小学校の復習を始める。	ア②	観察
10分 5分 10分	I 小学校の時の夢を思い出す II これまでの4人を振り返る III Unit. 5 へのつなぎ	・指導者の発問に答える。 I wanted to be ~. ・職業に関する単語の理解をする。 ・これまでの単元で自分のなりたい職業について語っている登場人物のことを2年生の時の教科書を見ながら思い出す。 ・Unit. 4 の復習をしながら Unit. 5 の内容を推測する。	・Interaction しながら小学校の時の夢を思いさせるよう発問する。 What did you want to be when you were in elementary school? ・教科書の登場人物で、これまで将来の夢について語っている人を2年生の時の教科書を見ながら思い出すように指示する。 ・Unit. 4 の内容についてインタラクションしながら Unit. 5 へとつなぐ。 What are Ms. Sarim's students' dream? Why do they want to be doctors or teachers?	ア②	観察 OPP
13分	Personalization	・指導者と担任の中学生の時の夢の英文(資料①と②)を読んで理解し、誰が書いたものなのか予測する。 1) 教科担任の中学生の頃の夢を読んで、何になりたいのか、なぜなりたいのかを読み取る。 2) 担任の先生の中学生の頃の夢を読んで、何になりたいのか、なぜなりたいのかを読み取る。	・指導者と担任の中学生の時の夢を紹介した英文(資料①と②)を配布し、ペアでどんなことが書いているかシェアし、誰が書いたものを予測する。 ・英語を使って生徒とやりとりしながら、1)、2)についての生徒の理解を確認する。 ・実は資料①は教科担任の②は担任の中学生の頃の夢について書いたものであることを伝える。そして、担任からのメッセージを紹介する。 ・最終的に下の口の中の質問の答えをこの単元を通して考えて答えを見つけてほしいことを伝える。	ウ②	観察 WS
まとめ 2分		・本時のまとめを聞く。 ・振り返りシートに記入する。	・本時のまとめをする。 ・振り返りシートを配布し、記入するように指示する。		

(3) 各調査の結果と分析

①事前アンケート調査による生徒の実態把握

小学校外国語活動について以下のことが分かった。まず、小学校外国語活動に対して「外国語活動が好きだったか」という問いに「どちらかという当てはまる、当てはまる、とても当てはまる」と肯定的に答えた生徒が約75%いた。また「話すことが好きだったか」という問いに「どちらかという当てはまる、当てはまる、とても当てはまる」と肯定的に答えた生徒が約60%いた。「書くことが好きだったか」という問いには、「書くことはなかったのでは」と答えた生徒もいた。「どちらかという当てはまる、当てはまる、とても当てはまる」と肯定的に答えた生徒が約60%弱いた。これらの生徒の実態を踏まえて研究をデザインした。

②単元前後の語彙及び文法に関する調査と分析

小学校外国語活動を通して生徒たちの語彙、文法の学びについて以下のことが分かった。単語に関しては、多くの生徒が「聞いたことがある」、「使ったことがある」と答えている。中学校の学習でもよく使われる語である teacher, doctor, player については定着率が高い。中学校で文法として学ぶ表現については、「聞いたことがある」、「使ったことがある」と答えた生徒は単語ほど多くない。語彙に比べて表現の方が生徒にとっては馴染みのないものになってしまっているということがわかった。

語彙に関する単元前後の調査から、以下のことが分かった。なお、単元前の調査は10月に実施。単元後の調査は12月に実施。14問あり1問1点で14点満点。

- ①教師・先生②獣医③選手④看護師⑤花屋⑥医者
⑦料理人⑧運転手⑨アニマルトレーナー⑩エンジニア⑪美容師⑫保育士⑬パティシエ⑭作家

□中の単語について、1つ目は「聞いて理解できる調査」を行った。平均点は8.5点から12.1点に上がり、すべての語彙について正答率が上がった。特に、単元前の調査で10%程度の生徒しかわからなかった⑫や⑬については、それぞれ理解できる生徒が13%から81%に、10%から69%にと大幅に増えた。

次に職業を表す語彙を「読んでわかる」調査から以下のことが分かった。平均点は8.7点から12.1点に上がった。すべての単語について、正答率が上がった。特に単元前の調査で0~20%程度の生徒しかわからなかった⑫や⑬については、それぞれ理解できる生徒が19%から86%、20%から78%と大幅に増えた。これらの調査の結果から、小学校で学んだ語彙を復習しながら学ぶことで、多くの語彙が受容語彙として生徒に定着することが分かった。

次に文法について単元前後の調査から以下のことが分かった。語彙と同じように単元前の調査は10月実施。単元後の調査は12月に実施した。Ⅰはカッコに適する語を選択肢から選んで答える問題、Ⅱは日本語の意味に合うように並べ替える問題、Ⅲは日本語に訳す問題としそれぞれ5問ずつ、計15問の問題15点満点で調査した。

結果、平均点は8.9点から10点に上がった。また、正答率は12問でアップした。単元前の調査より正答率が下がった問題が3問あった。生徒の誤答を分析してみると、文法の理解があまりできていないことが分かった。これらのことと、②の単元前後の調査での表現において「語彙と比べ、生徒にとって学びが財産となっていない生徒が多い」ということから、小学校で学んだ表現を復習し、思い出すことで、中学校で文法事項=ルールとして繰り返し学ぶことが重要だと考える。

③単元前後のパフォーマンステストと分析

評価規準を生徒に示し、単元前10月、単元後12月に実施した。「文の数」、「内容」「単

語の使い方」、「文法（関係代名詞・不定詞の名詞的用法の使い方）」の4観点についてA,B,Cの3段階でALTによる評価で行った。Aを5点、Bを3点、Cを1点とし点数化し、平均点をだし比較した。平均点は11.5点から14.9点に上がった。「文の数」の評価は多くの生徒がAとなった。「内容」についてはあまり変化がなかった。もともと単元前の調査でAと評価された生徒が多かったためと思われる。「単語の使い方」については、職業を表す単語についてはほとんどの生徒が書けていたので、発表語彙となっていると言える。一方で既習語が正しく使えていなかったり、書けていなかったりして、Bと評価された生徒が増えた。理由として、生徒の書いた英文やインタビューから、生徒が定期テストや実力テストで点数をとるために、簡単で間違えにくい単語や文型を使った英文で書くよりも、できるだけ伝えたいことを伝えられそうな英文で書こうとチャレンジしたためだと考えられる。「文法」については、単元前の調査では関係代名詞は未習でありほとんどの生徒が使っていなかったためCが多い。今単元で関係代名詞を習ったこと、関係代名詞を使うことがパフォーマンステストの評価基準となっていたことからAまたはBと評価された生徒が増えた。Bの生徒は関係代名詞か不定詞のどちらかが正しく使えていない。やはり、文法事項は文を作る時のルールとして学ぶことで、生徒たちの表現の幅が広がることを授業の中で実感できるように指導を工夫することが重要だと考える。

次に特に顕著に変化を見せた生徒の英作文を比較したい。

Aさん：事前

I want to be a midwife because I like children. I think nursery teacher is also good.
*I hope to a lot of smiles of everyone. I sometimes listen to my mother's friends
*stories about her job.

A さん：事後

I want to be a midwife in the future. I like children. I think being a nursery teacher is also good. This is a job which helps a lot of people. I hope to see a lot of smiles from everyone. I sometimes listen to my mother's friend's stories about her job. *That I trying play, *touche and speak with children.

この生徒はスペリングミスがひとつあるが、文法的には正しい文が書けている。事前では hope の後ろの to see が抜けていたが、事後では正しく書くことができている。また、関係代名詞を使って正しい文を書くことができている。

B さん：事前

*I want to become speak English. I have three reasons. First, *speak English well is so cool. Second, I want to understand American's thinking. Third, I want to make many American friends. *To be speak English well, I study English hard.

B さん：事後

My dream is not clear yet. But I know one thing for sure. I want to be able to speak English well. *Because I like English. *I think we have to become can speak English in the future and I want to talk with many foreign people. I was very inspired by Tina and Aya's dreams. I think English has a wonderful power. *If the all people in the world can speak English, the world will become one. So I study English hard now. For example, I listen to English talking and *I'm writing words on my notebook every day. I want to be a person who can speak English well. I'm going to run my future.

この生徒は間違えた文を書いているが、インタビューで「間違えてもいいので、言いたいことを優先しようと考えた。そのため、書くことも多くなった」と話している。使える表現が増えたことから内容が充実したと見とれる。一方で、接続詞の使い方については全体にも個人にもフィードバックしているが、なかなか定着しないことがわかる。根気よく指導していくことが大切だと考えられる。2つの生徒の英作文から、文の量、内容ともに事後の方がレベルアップしていることがわかる。さらに正確性を高めることが重要であると言える。生徒へのインタビューからわかったことだが、単元を通して

What do you want to be in the future?
Why?
What do you want to do in the future?
Why?
What can you do for your dream?

と問い続けたことで、生徒自身が進路について考えたという声があった。その生徒は事後パフォーマンステストの際には、事前よりも良いものを書こうと意欲がわいたという。発問の工夫をすることで生徒の話すこと、書くことへの意欲が高まるのだと考えられる。

(4) 成果と課題

①小学校とのつながりを意識した指導

生徒へのインタビューから、「文法とかいきなり言われるより、小学校の時を思い出して、復習して勉強できたのがよかった」という声が複数あった。また、研究授業を参観してくださった方から「小学校で慣れ親しんだ表現・語彙を振り返ることで、学習の接続が具体的に体感できることから、教師と生徒とのやりとりをしながら職業を表す語を復習することは有効であった」という声が複数挙がった。これらのことから、小学校とのつながりを意識した指導の工夫を、つながりを語彙・文法・場面の視点で作成した一覧表を用

いて単元計画を立て、意図的に小学校での学びを復習できるように工夫をした指導で効果が上がったと言える。また、一中学校英語教師として、小学校とのつながりを意識するために一覧表を活用することで、見直しをもって指導を工夫することができたと言える。課題としては、今まで以上にタイムマネジメント、カリキュラムマネジメントが求められる。中でも教材の工夫、教科内容の軽重判断が特に重要であると言える。

②自己表現力の高まり

パフォーマンステストの結果から、高まったと考える。この高まりを支えたこととして4つの点をあげたい。

1つ目は、**Small Talk** や **Retelling** 活動に取り組む時間を設定することで、間違いを恐れずに英語を話すこと、書くことにチャレンジしようとする雰囲気づくりとこれらのことに対する気持ちのハードルを下げることができた。2つ目は、**Retelling** 活動を取り入れたことで生徒がこれまで学んだ英語を活用する場面を設定することができた。3つ目は、その場面を通して生徒自身が自分の言いたいことを英語で言う時に、単語力や文法力があると自分の言いたいことが言えるということに気づき、単語や文法を学ぼうとする意欲が高まった。4つ目は、単元を通して将来について問い続け、生徒が自分の進路について考える場面であることを筆者が意識し、場面での小学校とのつながりを意識し、指導できた。

一方課題として、英語を活用する意欲が高まったことで、生徒の真の思いや考えを話されたり、書かれたりした英語の正確性に課題があることがあげられる。英語を話すことや書くこと、そしてその力を高めることは、生徒の意欲によることが大きい。したがって、生徒の話すこと、書くことへの意欲を指導者が支えながら、正確性を高めるための指導の工夫をしていくことが重要であると考え。また、本研究では、自己表現力の構成要素で

ある4つのうちの2つに重点を置いて指導してきたが、今後、談話能力や社会言語能力を高める指導の工夫をすることで、生徒の自己表現力をさらに高められる可能性があると考えられる。

4. 結論

リサーチ・クエスチョンを「小中のつながりを意識した指導の工夫は生徒の自己表現力の高まりに有効か」としてきた。ここまでの成果と課題から、小中のつながりを意識した指導の工夫は、生徒の自己表現力の高まりに有効であると言える。言い換えると、小学校での学びを中学校教師が意識的につなげた指導を工夫することで、生徒に復習の機会を与えるだけではなく、その学びをベースに中学校でさらに深化し、生徒がそれまで学んだ英語を活用して自己表現する力を高めることができる可能性があると言える。しかし今回研究する中で見えた課題点もあることから、今後も小中のつながり一覧表を活用しながら、中学1年生を対象に実践・検証をしたい。

5. おわりに

今年度勤務校に戻り、小中両方の管理職の理解を得て、実際に校区内の小学校と小中連携させていただいたことは、大きな財産となった。今後も外国語教育における小中連携に努め、文法事項・語彙・場面それぞれの一覧表を活用し、改訂しながら、小中で見直しをもった指導ができるよう努力したい。

6. 引用文献

- ・金谷憲 (2017). 『英語運用能力が伸びるラウンドシステムの英語授業』. 大修館書店
- ・清水貴美子 (2018). 『平成29年度教育実践研究報告書』. p.153~160. 山梨大学教育学研究科教育実践創成専攻
- ・田中武夫・田中知聡 (2003). 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』. 大修館書店